

## 「としま・まちごと福祉支援プロジェクト」イベント（2020年11月開催）ご報告

11月12日（木）に行われた「としま・まちごと福祉支援プロジェクト会議Vol.10」のご報告です。

NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 理事長 栗林 知絵子さんの講演会「WAKUWAKU ネットワークが育てきた 地域で見守るとしまの子ども」無事終了いたしました。

平日16時からという集まりにくい時間帯でしたが、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

会場では栗林さんのお話、協会のスタッフも思わず涙する場面も。私も涙でPCの画面が曇りました。そんなことを言うと栗林さんに「普通の日常生活での出来事ですよ」と笑われそうですが、私たちがいかに「普通の日常生活」に気がついてないかの反省にもなりました。

栗林さんの活動の始まりは、池袋のプレーパークへの参加がきっかけ。その理由はアレルギーがあり、お米しか食べられないお子さんのために、いっぱい遊んで美味しくご飯を食べるため。子どもだけである居場所にもなっていたため、子どもを連れてくる栗林さんがその活動の代表になってしまったといいます。そのうちに一緒に遊んでいる子どもの中に、家庭で問題のある子と知り合いになったそうです。昨日から何も食べていない、車で生活していたなど想像もつかないような環境で暮らしていた子供達に出会ったけれど、福祉関係の部署に繋いでも早期には解決できない。それなら土日だけでもできることをしよう。一緒に過ごす（食べる・遊ぶ）ことをしよう。その気持ちの継続でNPO団体「wakuwakuネットワーク」を作られたそうです。

最初は先駆者的な事例を紹介する活動でしたが、必要を感じ、子供食堂・学習支援を始めたwakuwakuネットワーク。子供食堂の場を提供してくれたお家のお話は、確かに日常生活での出来事の1コマなのですが、子供たちと高齢者が一緒に生活することで芽生えた愛情を目の当たりにする記録でした。年齢もバラバラな地域の人たちが、子供とご飯を一緒に食べることで家族と同様の愛情が芽生えてくる。場を提供してくれたお宅のおばあちゃんは高齢で、どうしたって弱ってしまう。漫画「大家さんとぼく」のお話にも通じますが、来たお別れを考えつつも、日常生活を送ることの大切さを感じました。そしてできないことは自分たちでやる行動力の高さを学びました。

今、南池袋のサロンではキッチンを作るクラウドファンディングを行っていますが、これを完成させて新たな場を作らなければいけないと思いました。そしてこの場が決して解決の場ではないこと、むしろ7人に一人の子供が経済的に困窮しているという現実を取り巻く、社会の問題解決に目を向ける場になることを望みます。



栗林 知絵子さん

facebookご登録をお願いいたします。



100年コミュニティ 検索



一般社団法人  
コミュニティネットワーク協会

100年コミュニティ 検索



<https://conet.or.jp>